

「地域を守る」決意新たに

消防団定期観閲式

防災意識の向上と消防団員の士気高揚を図るため「第9回つがる市消防団定期観閲式」が6月16日、イオンモールつがる柏の駐車場で行われました。観閲式では、消防団員が日頃の訓練の成果を観閲者である福島市長や多くの市民らに披露。分列行進、機械器具点検等の審査や玉落競技が行われ、万一の災害に備え決意を新たにしました。



息の合った分列行進を披露する消防団員



機敏な動作で行われた機械器具点検



開始報告する箱田团长ら



福島市長による視閲点検

消防団は「自らの地域を自ら守る」という連帯意識で結び付いた防災組織で、現在、つがる市消防団には56分団、消防車両83台が配備され1300人の団員が消火訓練等を行いながら万一の災害に備えています。

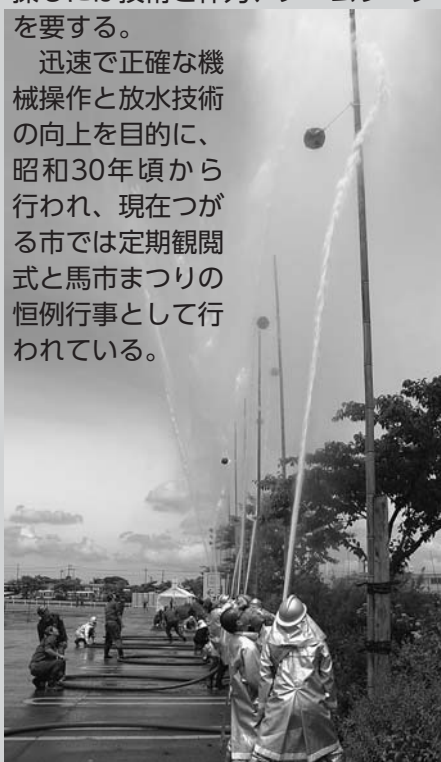
観閲式では福島市長らによる視閲点検、消防車両の機械器具点検が行われた後、団員や婦人防火クラブ、車力分屯基地隊員が青森山田高等学校吹奏学部の演奏に合わせ、勇壮な分列行進を披露し、士気を高めました。また、かしわ保育園、銀杏ヶ丘保育園の園児による幼年消防クラブも消防車両の機械器具点検と消防操法訓練を堂々と披露し、会場から大きな拍手を受けていました。

式典では、表彰伝達・授与が行われ、消防庁長官表彰として、木造地区分団長の杉野森元一さんと秋田谷廣次さんが表彰されました。福島市長は「災害が複雑多様化する中、防災の要として消防団の役割はますます高くなってきています。災害に強く、安心して安全な地域づくりのため、い

玉落競技

地面から7.3mの高さに風糸で吊り下げられた張り子の玉に放水して玉を落とす時間を競う。1分団5～6人で、放水員3人(筒先員2人、補助員1人)、機械員2～3人で構成される。直径約30cmの玉に狙いを定めて、圧力のかかるホースの筒先を操るには技術と体力、チームワークを要する。

迅速で正確な機械操作と放水技術の向上を目的に、昭和30年頃から行われ、現在つがる市では定期観閲式と馬市まつりの恒例行事として行われている。



竹竿に玉を巻き付けて玉の動きを少なくし、タイミング良く玉の芯を目掛けて放水するのがコツ



玉を落として成功を喜ぶ車力第7分団の団員

玉落競技の成績 (第1位)

- 50馬力以下の部
木造第11分団(出崎) 39秒69
- 51馬力～85馬力の部
木造第3分団第1部(川除) 26秒72
- 86馬力以上の部
車力第4分団(下牛瀧) 15秒21



婦人防火クラブの分列行進



的に目掛けて放水する銀杏ヶ丘保育園児



祝辞を述べる三村知事



火災予防を呼び掛けるかしわ保育園の子どもたち



優勝旗を受け取る柏大隊



大人顔負けの動きを見せるかしわ保育園児

なる災害にも即応できる装備の充実を進めます」と述べ、箱田鐵雄団長が「消防という崇高な使命達成と市民の安全のために一層精進してほしい」と訓示。来賓の三村申吾知事が「県内10市における過去5年間の火災死者数が最も少ないのがつがる市。団員の皆さんの火災予防活動、迅速な消火活動の賜で心強い限りです。これからも誇りと使命感を持ってご尽力ください」と述べました。

観閲式の総合成績は、柏大隊が連覇を果たし、森田大隊が2位、木造第一大隊が3位となりました。